

●軍艦職員條例

明治十七年十月一日(丙)
(一四三)

改正 明治二十二年四月達一一一號、七月二八二號、二十三年三月一一八號
二十六年十月一〇六號、二十七年六月八七號、三十年五月六〇號廢止

軍艦職員條例

第一條 軍艦ノ職員ハ左ノ如シ

- 一 艦長 佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一 副長 少佐或ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一 砲術長 大尉或ハ中尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一 水雷長 同前
- 一 航海長 同前
- 一 分隊長 同前
- 一 機關長 機關少監或ハ大機關士若クハ中機關士ヲ以テ之ニ補ス
- 一 軍醫長 軍醫少監或ハ大軍醫若クハ中軍醫ヲ以テ之ニ補ス
- 一 主計長 主計少監或ハ大主計若クハ中主計ヲ以テ之ニ補ス
- 一 航海士 少尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一 分隊士 少尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一 水雷主機 大機關士或ハ中機關士若クハ少機關士ヲ以テ之ニ補ス
- 一 大機關士中機關士少機關士
- 一 大軍醫中軍醫少軍醫
- 一 大主計中主計少主計
- 一 少尉補
- 一 機關士補
- 一 主計補
- 一 掌砲長 兵曹上長或ハ兵曹長ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 掌水雷長 同前
- 一 掌帆長 同前

- 一 木工上長木工長
- 一 機關工上長機關工長
- 一 砲術教授 兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 水雷教授 同前
- 一 掌砲長屬 同前
- 一 掌水雷長屬 同前
- 一 掌帆長屬 同前
- 一 前甲板長 同前
- 一 前甲板次長 兵曹或ハ一等水兵ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 按針手 兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 信號手 同前
- 一 艦長端舟長 同前
- 一 大檣樓長 同前
- 一 大檣樓次長 一等水兵ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 前檣樓長 兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 前檣樓次長 一等水兵ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 後甲板長 兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 船艙手 同前
- 一 帆縫手 同前
- 一 後檣樓長 兵曹或ハ一等水兵ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 木工長屬
- 一 機關工手
- 一 水雷工手
- 一 火夫長火夫長屬
- 一 警吏警吏補
- 一 筆記
- 一 厨宰 主厨ヲ以テ之ニ充ツ

一 割 烹 手 同前

一 看 護 手

一 鍛冶長鍛冶長屬

一 兵器工長兵器工長屬

一 塗工長塗工長屬

一 桶 工 長

但此職員中艦ノ種類ニ因リ之ヲ置カサル者アリ

第二條 艦長ハ其艦ノ保安ヲ負擔シ兵備ヲ整ヒ艦務ヲ幹理シ乘員ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持スルヲ任トス

第三條 艦長ハ其艦ノ製式、來歴、現狀、各部ノ構造、攻戰防守ノ能力及ヒ航海上ノ性質ヲ詳知シ常ニ其艦ヲ整頓シ航海戰鬪ニ當リ支障ナカラシムルヲ要ス

第四條 艦長ハ制定ノ式ニ基キ當直、戰爭、運用、防火等ノ部署ヲ定メ乘員ヲシテ各自之ヲ熟知セシム可シ

第五條 艦長ハ總員ヲ用フル操練事業ニ於テハ其號令ヲ司ルヘシ但時宜ニ依リ副長ヲシテ代リテ號令ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 艦長ハ其艦管術ノ命アルトキハ大砲ノ實射並ニ水雷ノ試發ヲ施行ス可シ而シテ其成績ハ所管長官ニ報告スルモノトス

第七條 艦長ハ定規ニ從ヒ大砲及ヒ水雷ノ實地演習ヲ施行ス可シ而シテ其成績ハ所管長官ニ報告スルモノトス

第八條 艦長ハ課程教練ノ外臨時實地諸操練ヲ爲ス可シ但同港或ハ其近港ニ所管長官若クハ先任官アルトキハ其許可ヲ得可シ

第九條 艦長ハ定所外ニ於テ銃砲射的及ヒ陸上操練等ヲ要スルトキハ所管長官若クハ先任官ノ許可ヲ得可シ其港或ハ近港ニ所管長官在ラサルトキハ其所轄廳又ハ郡區役所ニ協議ス可シ

但土地ノ景況及ヒ射的操練等ノ模様ニ依リ協議ヲ要セスト思考スルモノハ通知ニ止ムルモ妨ナシ

第十條 艦長ハ砲術水雷運用等ノ操法ニ於テハ定制ノ式ニ從フ可シ但其改良ノ意見アルトキハ之ヲ所管長官ニ具狀スルコトヲ得

第十一條 艦長ハ海圖若クハ水路誌ノ差異又ハ圖誌上ニ記載ナキ暗礁島嶼ヲ發見スルトキハ其報告書ヲ製シ又未測ノ港灣ニ至リシトキハ其略圖ヲ製シテ直ニ水路局長ニ送致シ且其要略ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第十二條 艦長ハ水路嚮導區内若クハ航路不明又ハ危險ノ場所ニ於テ水路嚮導者ヲ備役スルコトヲ得

第十三條 艦長ハ其艦ノ保安ニ於テハ責任ヲ有スルヲ以テ假令水路嚮導者ヲ使用スルモ尙ホ之ヲ監視シ危險ト思考スルノ位置ニ其艦ヲ運行セシム可ラス

第十四條 艦長ハ毎年二回其艦ノ回轉力ヲ試驗シ其成績ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第十五條 艦長ハ其艦ノ汽機汽罐ノ製式來歴各部用法ノ要領及ヒ能力ヲ詳知シ常ニ整頓準備シ役務ニ支障ナカラシム可シ

第十六條 艦長ハ時時其艦ノ經濟速力ヲ試定シ又毎年二回全速力ノ試驗ヲ爲シ其成績ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第十七條 艦長ハ石炭ヲ節約シ航海中ハ成ル可ク帆走ス可シ又諸需用物品ハ勉メテ之ヲ節約ス可シ

第十八條 艦長ハ其艦ノ醫務衛生ノ事ヲ監督シ乘員ノ健康ヲ保持ス可シ

第十九條 艦長ハ其艦内ニ傳染病者アルトキハ電信ノ設ケアル地ハ電報ヲ用ユ速ニ所管長官ニ報告ス可シ

第二十條 艦長ハ其艦ノ會計給與ノ事ヲ監督シ且毎月一回會計

諸帳簿及ヒ現在金額ヲ検査ス可シ又定例外ノ經費ヲ要スルトキハ其豫算書ヲ添ヘ所管長官ニ具申ス可シ

第二十一條 艦長ハ二艘以上ノ先任官タルトキハ諸艦一般ニ係ル指揮ヲ掌ル可シ

第二十二條 艦長ハ其艦鎮守府港内若クハ船渠ニ在ルトキハ乗員ヲシテ其港則及ヒ造船所規則ヲ遵守セシム可シ

第二十三條 艦長ハ其艦外國ニ在ルトキハ乗員ヲシテ其地方ノ官吏及ヒ人民ニ對シ勉メテ無禮ノ舉動ナカラシメ且ツ其制規慣例ヲ遵守セシム可シ

第二十四條 艦長ハ彈藥庫及ヒ其注水嘴ノ鍵ヲ保管シ若シ事故アルトキハ副長若クハ先任將校ニ限り之ヲ委托保管セシムルコトヲ得

第二十五條 艦長ハ航海若クハ碇泊中遭難ノ船舶ヲ發見スルトキハ之ヲ救助ス可シ又碇泊港内ノ陸地ニ火災アルトキハ便宜ニ從ヒ消防ノ處置ヲ爲ス可シ但此場合ニ於テハ速ニ所管長官ニ報告ス可シ

第二十六條 艦長ハ其艦破砕沈沒火災ノ難ニ遭フトキハ必ス先ツ乗員ノ生命ヲ救助シ續テ糧食會計帳簿及ヒ日誌其他必要ノ器具物品ヲ保護シ殊ニ祕密ニ係ル書類ハ自ラ之ヲ保護シ已ムヲ得サルトキハ臨機ノ處分ヲ爲シ以テ他見ヲ防止ス可シ

第二十七條 艦長ハ副長副長ナキ艦ハ先任將校ト同時ニ陸泊ス可カラス又副長不在ノトキハ先任將校ヲシテ必ス在艦セシム可シ

第二十八條 艦長ハ其艦派遣中他艦ト出會スルトキハ之ニ就キ又歸港セシトキハ旗艦若クハ先任艦ニ就キ海軍ノ法律規則竝ニ内則命令簿ヲ照合シ之ヲ改正ス可シ

第二十九條 艦長ハ其艦修理若クハ再艤裝ノ爲メ鎮守府内ニ入ルトキハ速ニ其長官ニ報告シ検査ヲ受ク可シ又船渠ノ出入ハ

其都度所管長官ニ報告ス可シ

第三十條 艦長ハ其艦再艤裝及ヒ修理等ヲ要スルトキハ所管長官ニ請求ス可シ但外國ニ在ルトキ若クハ至急ヲ要スルトキハ便宜處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第三十一條 艦長ハ其艦ノ船體瀆機兵器船具及ヒ貯積法等ノ變更ヲ要スヘシト思考スルトキハ其利害得失ヲ所管長官ニ具狀スルコトヲ得

第三十二條 艦長ハ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ其理由ヲ詳記シ之ヲ所管長官ニ請求ス可シ但外國ニ在ルトキ若クハ至急ヲ要スルトキハ之ヲ改正スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第三十三條 艦長ハ所管長官ノ認可ヲ經ルニ非サレハ需用物品ヲ購買シ又船隻職工ヲ雇ヒ若クハ地所倉庫等ヲ借ルコトヲ得但外國ニ在ルトキ若クハ至急ヲ要スルトキハ便宜處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第三十四條 艦長ハ准士官以上ニ臨時主管外ノ職務ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 艦長ハ卒以下ヲ他艦ニ轉乘セシムルコトヲ得但其都度所管長官ニ報告ス可シ

第三十六條 艦長ハ何人ヲ問ハス所管長官ノ命令或ハ許可ナクシテ其艦ニ便乗セシム可ラス但已ムコトヲ得サルトキハ便乗セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ所管長官ニ報告ス可シ

第三十七條 艦長ハ其艦外國ニ在テ臨時ノ異狀其他有益必要ト認定スル事項アルトキハ速ニ所管長官若クハ海軍卿ニ報告ス可シ尤事項ニ由リ必要ト思考スルトキハ其地駐劄日本公使又ハ領事ニモ通報ス可シ

第三十八條 艦長ハ其艦發着ノ港及ヒ回航ノ線路地方ヲ其都度所管長官ニ報告ス可シ

第三十九條 艦長ハ火急ノ場合ニ於テ已ムヲ得サルトキハ錨鎖ヲ解脫シ或ハ之ヲ切斷スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第四十條 艦長ハ船體瀆機淺罐ニ危險ナル損害ヲ生シ又ハ重要ナル兵器船具等ヲ毀損シ或ハ之ヲ失亡シタルトキハ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第四十一條 艦長ハ其艦暗礁淺瀬等ニ抵觸スルトキハ其部分ヲ検査シ速ニ其詳細ヲ所管長官ニ報告ス可シ

第四十二條 艦長ハ其艦他艦船ト衝突シタルトキハ自己ノ報告ノ外當直其他適當ト認ムル乗員ヨリ衝突ノ事實就中左ニ列記スル事項ハ明細書ヲ出サシメ之ヲ所管長官ニ出ス可シ

其一 衝突ノ時刻

其二 衝突ノ場所

其三 風向風力

其四 天候ノ模様

其五 潮流ノ模様及ヒ速力

其六 我艦ノ針路及ヒ速力

其七 他船ヲ發見シタル時刻

其八 我艦表示シタル燈火ノ現狀

其九 他船ヲ發見シタルトキ其距離及ヒ方位

第十 發見シタル他船燈火ノ現狀

第十一 前項ノ外衝突前發見シタル他船燈火ノ現狀

第十二 衝突ヲ避クル爲メ本艦ニ於テ施シタル處置及ヒ其時刻

第十三 我艦他船始メテ相觸レタル各部分

第四十三條 副長ハ艦長ヲ輔佐シテ艦務ヲ整理シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持スルヲ任トス

第四十四條 副長ハ艦長事故アルトキハ其代理ヲ爲シ又艦長缺員中ハ其職務ヲ執ル可シ但代理中ハ艦長ノ定メタル例規ヲ變更ス可ラス

第四十五條 副長ハ艦内警察ノ事務ヲ擔任シ且砲術長以下諸員ノ勉否ヲ監察ス可シ

第四十六條 副長ハ常ニ其艦ノ兵備其他一切ノ現狀ニ注目シ若シ完全ナラサルコトヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ艦長ニ報告ス可シ

第四十七條 副長ハ艦長ノ命ヲ受ケ當直、戰爭、運用、防火ノ部署表等ヲ調製シ常ニ之ヲ整理シ且乗員ヲシテ之ニ關スル各自ノ職務ヲ熟知セシム可シ

第四十八條 副長ハ課業ニ係ル事ヲ擔任ス可シ

第四十九條 副長ハ艦長事故アルトキ又艦長ノ命アルトキハ總員ヲ用フル操練事業ノ號令ヲ司トル可シ

第五十條 副長ハ其艦保安ノ責任ニ於テハ艦長ニ亞クテ以テ艦長甲板上ニ在ラサルトキハ艦ノ運轉ニ就キ時宜ニ由リ當直士官ニ指令シ又急遽ノ際ハ自ら其指揮ヲ執ル可シ

第五十一條 副長ハ艦長ノ命アルトキハ當直ヲ爲ス可シ

第五十二條 副長事故アルトキ及ヒ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ

先任將校副長ノ職務ヲ擔任ス可シ

第五十三條 砲術長ハ艦長ヲ補助シテ主管ノ兵備ヲ整頓シ又砲術ノ教授ヲ監督スルヲ任トス

第五十四條 砲術長ハ掌砲長砲術教授兵器工長以下諸員ノ職務ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知スルヲ要ス

第五十五條 砲術長ハ常ニ砲銃彈藥其他主管ニ屬スル器具ノ適

否ヲ調査シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第五十六條 砲術長ハ戰爭部署ヲ定ムルトキハ艦長ヲ補助シ而シテ常ニ戰爭部署表ヲ整理ス可シ

第五十七條 砲術長ハ砲術日誌及ヒ砲術成績簿ヲ記註シ又砲術ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ出ス可シ

第五十八條 砲術長ハ時々兵具庫ノ現狀ヲ檢查ス可シ

第五十九條 砲術長ハ水雷長ヲ置カサル艦ニ在テハ水雷、電氣燈、發砲電機等ノ事ヲ管理ス可シ

第六十條 水雷長ハ艦長ヲ補助シテ主管ノ兵備ヲ整頓シ又水雷ノ教授ヲ監督スルヲ任トス

第六十一條 水雷長ハ掌水雷長水雷教授以下諸員ノ職務ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知スルヲ要ス

第六十二條 水雷長ハ常ニ水雷、水雷裝藥及ヒ水上發射器其他主管ニ屬スル器具ノ適否ヲ調査シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第六十三條 水雷長ハ水雷ニ關スル部署ヲ定ムルトキハ艦長ヲ補助シ而シテ常ニ其表ヲ整理ス可シ

第六十四條 水雷長ハ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ具申ス可シ

第六十五條 水雷長ハ水雷ニ關スル日誌及ヒ成績簿ヲ記註シ又其主務ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ出ス可シ

第六十六條 航海長ハ艦長ヲ補助シテ其艦ノ航海及ヒ水路嚮導ノ事ヲ擔任シ又航海及ヒ信號ニ關スル圖書器具竝ニ旗章ヲ管理シ艙内貯積ノ方法ヲ監督スルヲ任トス

第六十七條 航海長ハ按針手船艙手信號手以下ノ職務ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知スルヲ要ス

第六十八條 航海長ハ經線儀羅針ノ差ヲ測定シ又海圖水路誌ノ

改正増補ハ遺漏ナク之ヲ記入ス可シ

第六十九條 航海長ハ航海中常ニ其艦ノ位置ヲ測定シ又港灣ヲ出入シ海峡及ヒ海岸ヲ航行スルトキハ甲板上海去ス可ラス而シテ水路嚮導者ヲ備役スルトキハ之ヲ監視ス可シ

第七十條 航海長ハ航海中針路ノ變換ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ報告ス可シ但危險ニ切迫シ報知シ暇ナキトキハ之ヲ避クルノ針路ヲ當直士官ニ指示ス可シ

第七十一條 航海長ハ海圖若クハ水路誌ノ差異又ハ圖誌上ニ記載ナキ暗礁島嶼等其他航路ニ關スル要件ヲ發見アルトキハ圖或ハ報告書ヲ製シ艦長ニ出ス可シ

七十二條 航海長ハ航泊日誌及ヒ航海ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ出ス可シ

第七十三條 航海長ハ其艦ノ貯積法、釣合及ヒ航海上ノ性質ニ關スル事ヲ管理シ又艙内貯積及ヒ水罐ノ現狀ヲ熟知シ且其整頓ヲ監視ス可シ

第七十四條 航海長ハ時時錨、錨鎖、帆、綱等ノ適否ヲ調査シ之ヲ艦長ニ報告ス可シ

第七十五條 航海長ハ船具庫、工具庫ノ現狀ヲ檢查ス可シ而シテ砲術長アラサル艦ニ在テハ兵具庫モ亦又ヲ檢查ス可シ

第七十六條 航海長ハ每週掌帆長及ヒ木工長主管ノ需用物品ニ係ル諸帳簿ヲ檢查ス可シ

第七十七條 航海長ハ機關士主計ニ屬セサル諸庫ノ鍵ヲ保管ス可シ

第七十八條 航海士ハ航海長ノ職務ヲ補助ス可シ而シテ航海長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス可シ

第七十九條 航海士ハ副直士官ト爲ルトキハ第九十八條ヨリ第一百一條迄ノ條項ヲ遵守ス可シ但碇泊中時宜ニ依リ當直士官ヲ

命セラレタルトキハ第八十五條ヨリ第九一條迄ノ條項ヲ遵守ス可シ

第八十條 分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ其行狀技倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス可シ

第八十一條 分隊長ハ隊員ヲ督勵シ各其職務ヲ勇奮活潑ニ施行セシメ又常ニ分擔ノ兵器ヲ整頓シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第八十二條 分隊長ハ戰爭、運用、防火等各部署ノ長ト爲リ部署員ヲ訓練シ各自負擔ノ要具ヲ整頓シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第八十三條 分隊長ハ交番ニ當直士官ト爲リ其主務ヲ掌理ス可シ

第八十四條 分隊長ハ訪問使ヲ命セラレタルトキハ例規ニ從ヒ其主務ヲ掌理ス可シ

第八十五條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ其勤務中其艦ノ安全ヲ保ツコトニ於テハ艦長ニ對シ責任ヲ有スルモノトス

第八十六條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ副直士官以下諸員ノ職務ヲ監督ス可シ而シテ適當ノ交代ヲ得ルニ非サレハ甲板上ヲ離去ス可ラス

第八十七條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ直員ヲ指揮シ當直中ノ諸事件ヲ處分シ又航泊日誌ノ記注ヲ掌ル可シ

第八十八條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ甲板上、橋上及ヒ外舷ノ現狀ニ注目シ諸物件ヲ整頓ス可シ

第八十九條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ航海碇泊ヲ問ハス常ニ四方ニ注目シ他艦船ノ進退陸地暗礁等其他重要ノ件ヲ發見シタルトキハ速ニ艦長ニ報告ス可シ

第九十條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ錨ノ増減錨鎖ノ伸縮錨

路ノ變換等其他重要ノ件ハ必艦長ノ命ヲ受ルヲ要ス但急遽ニシテ艦長ノ命ヲ受ルノ暇ナキトキハ適宜之ヲ處置シ同時ニ艦長ニ報告ス可シ

第九十一條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ艦長ノ命ヲ受クルニ非サレハ信號ヲ爲ス可ラス但他艦船ニ切迫ノ危難ヲ警報スルハ此限ニ在ラス

第九十二條 分隊長ハ分隊長ヲ補助シ隊員ヲシテ分隊長ノ命令ニ服從シ各自負擔ノ職務ヲ履行セシメ而シテ分隊長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス可シ

第九十三條 分隊長ハ戰爭、運用、防火等ノ各部署ヲ分擔シ部署長ヲ補助シ部署員ヲシテ其命令ニ服從シ各自負擔ノ要具ヲ整頓セシム可シ

第九十四條 分隊長ハ碇泊中時宜ニ依リ當直士官ヲ命セラレタルトキハ第八十五條ヨリ第九一條迄ノ條項ヲ遵守ス可シ

第九十五條 分隊長ハ番兵司令ヲ命セラレタルトキハ番兵規則ニ從ヒ其主務ヲ掌理ス可シ

第九十六條 分隊長ハ甲板掛ヲ命セラレタルトキハ直ニ副長ノ指揮ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス可シ

第九十七條 分隊長ハ端舟掛ヲ命セラレタルトキハ直ニ副長ノ指揮ヲ受ケ端舟及ヒ其屬具ヲ保管シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第九十八條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ前甲板ニ在テ當直士官ノ職務ヲ補助ス可シ

第九十九條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ其艦ノ安全ヲ保ツノ責ニ於テハ當直士官ニ亞クモノトス

第一百條 分隊長當直士官ト爲ルトキハ下士以下直員ヲシテ當直士官ノ命令ニ服從シ各自負擔ノ職務ヲ履行セシム可シ

第一百條 分隊士副直士官ト爲ルトキハ艦ノ前路ニ注目シ船舶陸地暗礁等ヲ發見スルトキハ速ニ當直士官ニ報知シ且舷燈橋燈ヲ監視ス可シ

第一百二條 少尉補ハ航海士分隊士ノ勤務ヲ見習フ可シ但特ニ命セラレタル事件ニ於テハ責任ヲ有スルモノトス

第一百三條 機關長ハ其艦ノ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ又機關工手火夫長以下諸員ヲ統ヘ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ且其行狀技倆ヲ熟知スルヲ要ス

第一百四條 機關長ハ主管ノ事務ニ於テハ艦長ニ對シ擔保ノ責ニ任シ亦機關部長ノ監督ヲ受クルモノトス

第一百五條 機關長ハ艦長ノ命ヲ受ケ機關部諸員ノ部署ヲ定メ其表ヲ調製シ常ニ之ヲ整理シ且各自ニ職務ヲ熟知セシム可シ

第一百六條 機關長ハ汽機、汽罐ノ製式、來歴及ヒ諸部ノ用法能力等ヲ詳悉シ常ニ之ヲ保護整頓シ以テ實用ニ支障ナカラシム可シ

第一百七條 機關長ハ蒸氣及ヒ水壓諸機械、其他二重底防水戸、鐵製砲車、傳令機、唧筒等ノ機關室外ニ在ルモノト雖モ保存適否ニ關シテハ其責ニ任ス可シ

第一百八條 機關長ハ安全盆ノ重量ヲ増減スルヲ要スルトキハ艦長ノ許可ヲ得可シ

第一百九條 機關長ハ其艦汽走中ハ機關ノ動作及ヒ直員ノ職務ヲ監督シ又港灣ノ出入海峡ノ航行及ヒ艦隊ノ操練其他必要ノ際ハ機關室ニ在テ其職務ヲ執行ス可シ

第一百十條 機關長ハ鐵艦ノ船體、汽機、汽罐其他ノ諸器械及ヒ炭庫内ノ溫度ハ例規ニ從ヒ檢査試驗ス可シ

第一百一條 機關長ハ汽機、汽罐ニ故障アルトキ或ハ其修理ヲ要スルトキハ速ニ艦長ニ報告ス可シ

第一百十二條 機關長ハ機關室日誌及ヒ汽機、汽罐ニ關スル諸圖書、報告等ノ調製ヲ管理ス可シ

第一百三條 機關長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又石炭其他需用物品ハ勉メテ之ヲ節約ス可シ

第一百四條 機關長ハ汽機、汽罐等ノ修理ニ際シ海軍部外ノ工場ニ委託シ或ハ艦内ニ於テ其職工ヲ傭役スルトキハ其工事ヲ監視ス可シ

第一百五條 機關士ハ各部署ヲ擔任シ各其主務ヲ掌理シ又機關長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス可シ

第一百六條 機關士ノ中若干員ハ機關長ヲ補助シ機關工手火夫長以下諸員ニ係ル事務ヲ擔任ス可シ

第一百七條 機關士ハ交番ニ當直ヲ擔任シ直員ヲ指揮シ機關室ヲ整頓シ又機關室日誌ノ記註ヲ掌ル可シ

第一百八條 機關士當直中ハ機關ノ動作ニ注意シ汽機、汽罐ニ故障アルトキハ速ニ機關長ニ報知ス可シ但急遽ノ際ハ適宜之ヲ處置シ同時ニ機關長ニ報知シ又艦ノ速力ニ關スル件ハ併セテ當直士官ニ通知ス可シ

第一百九條 機關士當直中ハ適當ノ交代者ヲ得サレハ決シテ機關室ヲ離去ス可カラス

第一百十條 機關士補ハ機關士ノ勤務ヲ見習フ可シ但特ニ命セラレタル事件ニ於テハ責任ヲ有スルモノトス

第二十一條 水雷主機ハ魚形水雷及ヒ水雷船ノ機關部、電氣燈ノ發電機竝空氣壓搾器等ヲ管理シ水雷工手以下諸員ノ職務ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知スルヲ要ス

第二十二條 水雷主機ハ其職務ニ於テハ機關長ノ監督ヲ受クルモノトス

第二十三條 水雷主機ハ其主管ニ屬スル機械ノ製式及ヒ其用

法等ヲ詳知シ常ニ之ヲ保護整頓シテ實用ニ支障ナカラシム可シ

第二百二十四條 水雷主機ハ魚形水雷及ヒ其附屬具中掌水雷長ノ主管ニ屬セサル者ハ之ヲ保護シ又水中發射管及ヒ之ニ屬スル器具ヲ保護整頓ス可シ

第二百二十五條 水雷主機ハ其主管ニ屬スル機械ニ故障アルトキハ機關長ヲ經由シテ之ヲ艦長ニ報告シ而シテ水雷長ニモ通知ス可シ

第二百二十六條 水雷主機ハ其主務ニ關スル諸報告ヲ調製シ機關長ヲ經由シテ之ヲ艦長ニ出ス可シ

第二百二十七條 軍醫長ハ其艦ノ醫務衛生ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ艦長ニ對シ其責ニ任ス而シテ亦軍醫部長ノ監督ヲ受クルモノトス

第二百二十八條 軍醫ハ軍醫長ノ職務ヲ補助ス可シ而シテ軍醫長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス可シ

第二百二十九條 軍醫長及ヒ軍醫服務ノ詳細ハ海軍軍醫官服務通則ニ在ルヲ以テ之ヲ遵守ス可シ

第二百三十條 主計長ハ其艦ノ會計給與ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ又筆記主廚以下ノ行狀技倆ヲ熟知スルヲ要ス

第二百三十一條 主計長ハ主管ノ事務ニ於テハ艦長ニ對シ擔保ノ責ニ任シ亦主計部長ノ監督ヲ受クルモノトス

第二百三十二條 主計長ハ艦長ノ處分ニ係ル公文ノ往復文書ノ記錄他ノ主管ニ屬セサル諸報告ノ調製及ヒ艦内ノ庶務ヲ管理シ又文庫ヲ整頓ス可シ

第二百三十三條 主計長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約ス可シ

第二百三十四條 主計ハ主計長ノ職務ヲ補助ス可シ而シテ主計長

事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス可シ
 第三百三十五條 主計補ハ主計ノ勤務ヲ見習フヘシ但特ニ命セラレタル事件ニ於テハ責任ヲ有スルモノトス
 第三百三十六條 主計長以下諸員服務ノ詳細ハ海軍主計官服務通則ニアルヲ以テ之ヲ遵守ス可シ

第三百三十七條 掌砲長ハ兵器彈藥ヲ保護シ彈藥庫ヲ整頓シ兵具庫ヲ管理シ及ヒ主管ニ屬スル需用物品ヲ出納スルヲ任トス

第三百三十八條 掌砲長ハ砲術長ノ監督ニ屬シ砲術長在ラサルトキハ砲術ノ教授ニ關スル事務ニ任スルモノトス

第三百三十九條 掌砲長ハ主管ノ職務ニ於テハ兵器工長以下諸員ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知ス可シ

第四百十條 掌砲長ハ兵器彈藥ノ收受返付ニ際シテハ其物質數額ヲ精密ニ調査ス可シ

第四百十一條 掌砲長ハ常ニ砲具、彈丸、火藥其他ノ兵器ヲ精密ニ調査シ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ砲術長ニ砲術長アラサルトキハ直ニ副長ニ申告ス可シ

第四百十二條 掌砲長ハ彈藥庫ノ現狀ヲ熟知シ常ニ庫内ニ注意シ濕沾危險ノ患ナカラシメ且其開閉ニ於テハ特ニ警戒ヲ加フ可シ

第四百十三條 掌砲長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約シ其諸帳簿ハ毎週砲術長ノ検査ヲ受ク可シ

第四百十四條 掌砲長ハ砲銃、彈藥其他兵器砲術ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ砲術長ニ砲術長アラサルトキハ副長ニ出ス可シ

第四百十五條 掌水雷長ハ水雷、水雷裝藥、電氣信管及ヒ電纜等ヲ保護シ水雷藥庫ヲ整頓シ水雷具庫ヲ管理スルヲ任トス

第四百四十六條 掌水雷長ハ水雷長ノ監督ニ屬シ水雷長アラサルトキハ砲術長ノ監督ニ屬スルモノトス

第四百四十七條 掌水雷長ハ主管ノ職務ニ於テハ掌水雷長屬以下諸員ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知ス可シ

第四百四十八條 掌水雷長ハ其主管ニ屬スル諸物品ノ收受返付ニ際シテハ其物質數額ヲ精密ニ調査ス可シ

第四百四十九條 掌水雷長ハ水雷及ヒ水上發射器ノ屬具其他裝藥信管等ヲ精密ニ調査シ實用ニ適セサル者アルトキハ速ニ之ヲ水雷長ニ申告ス可シ

第四百五十條 掌水雷長ハ常ニ乾濕綿火藥ノ現狀ニ注意ス可シ其形狀及ヒ重量ハ試驗法ニ於テハ毫毛綿火藥取扱規則ニ違フコトナキヲ要ス

第四百五十一條 掌水雷長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約シ其諸帳簿ハ每週水雷長ノ檢査ヲ受ク可シ

第四百五十二條 掌水雷長ハ其主管ニ屬スル物品ノ諸報告ヲ調製シ之ヲ水雷長ニ出ス可シ

第四百五十三條 掌帆長ハ帆、綱、錨、錨鎖其他ノ船具ヲ保護シ帆庫綱具庫ヲ整頓シ船具庫ヲ管理シ及ヒ主管ニ屬スル需用物品ヲ出納スルヲ任トス

第四百五十四條 掌帆長ハ主管ノ職務ニ於テハ船艙手帆縫手以下諸員ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知ス可シ

第四百五十五條 掌帆長ハ常ニ甲板上ノ事業ニ注目シ下士以下諸員ノ動作ヲ監視ス可シ

第四百五十六條 掌帆長ハ常ニ諸帆、諸索、錨、錨鎖其他ノ船具ヲ精密ニ調査シ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ航海長及ヒ當直士官ニ申告ス可シ

第五百五十七條 掌帆長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約シ其諸帳簿ハ每週航海長ノ檢査ヲ受ク可シ

第五百五十八條 木工上長木工長ハ船體、檣桁、端舟等ヲ保護シ其破損ヲ修理シ又唧筒ヲ整頓シ工具庫塗具庫ヲ管理シ及ヒ主管ニ屬スル需用物品ヲ出納スルヲ任トス

第五百五十九條 木工上長木工長ハ主管ノ職務ニ於テハ木工長屬鍛冶長塗工長桶工長以下諸員ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知ス可シ

第六百六十條 木工上長木工長ハ常ニ船體各部、檣桁、端舟及ヒ唧筒其他内外ノ木部ヲ精密ニ調査シ修理或ハ腐朽豫防ヲ要スルコトアルトキハ速ニ之ヲ副長ニ申告ス可シ又修理ノ爲メ職工ヲ雇役スルトキハ其工事ヲ監視ス可シ

第六百六十一條 木工上長木工長ハ常ニ船底汚水ノ有無増減ヲ檢査ス可シ

第六百六十二條 木工上長木工長ハ空庫空房ノ鍵ヲ保管ス可シ

第六百六十三條 木工上長木工長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約シ其諸帳簿ハ每週航海長ノ檢査ヲ受ク可シ

第六百六十四條 機關工上長機關工長ハ機關各部ヲ分擔シ其修理保存ノ事ヲ掌リ又交番當直スルヲ任トス

第六百六十五條 機關工上長機關工長ハ其職務ニ於テハ機關長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六百六十六條 機關工上長機關工長ハ主管ノ職務ニ於テハ火夫長以下諸員ヲ監督シ且其行狀技倆ヲ詳知ス可シ

第六百六十七條 凡ソ下士ハ各分隊長機關工手火夫長火夫長屬ハ機關長ニ隸屬シ艦則ヲ遵守シ同隊諸卒ヲ誘導シ又分隊長ノ命ヲ受ケ卒ノ身上ニ

係ル事ヲ取扱フ可シ

第一百六十八條 下士ハ各分隊長ニ隸屬スト雖トモ當直中ニ在テ

ハ當直士官ノ指揮ヲ受ケ其他ノ職務ニ於テハ各主務官ノ指揮ヲ受ケ可シ

第一百六十九條 砲術教授ハ砲術長若クハ掌砲長ノ指揮ヲ受ケ操

砲操銃ノ教授ヲ掌ル可シ

第一百七十條 水雷教授ハ水雷長ノ指揮ヲ受ケ水雷操法ノ教授ヲ

掌ル可シ

第一百七十一條 掌砲長屬ハ砲術長ノ指揮ヲ受ケ掌砲長ヲ補助シ

テ兵器彈藥ヲ保護出納シ彈藥庫兵具庫ヲ整頓ス可シ

第一百七十二條 掌砲長屬ハ後甲板手第一部ノ長ト爲ルトキハ副

長若クハ當直士官ノ指揮ヲ受ケ可シ又掌砲長事故アルトキハ

教授ニ關スル事務ノ外先任ノ者其職務ヲ代理ス可シ

第一百七十三條 掌水雷長屬ハ水雷長ノ指揮ヲ受ケ掌水雷長ヲ補

助シテ水雷ニ關スル器具物品ヲ保護出納シ水雷藥庫ヲ整頓ス

可シ又掌水雷長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス可シ

第一百七十四條 掌帆長屬ハ副長若クハ當直士官ノ指揮ヲ受ケ掌

帆長ヲ補助シテ諸帆諸索具ヲ保護整頓ス可シ

第一百七十五條 掌帆長屬ハ甲板上ニ交番當直シテ下士以下ヲ號

令ヲ傳達シ且副長若クハ當直士官ノ命スル事業ニ從フ可シ又

掌帆長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ之ヲ置カサル艦

ニ在テハ其職務ヲ奉ス可シ

第一百七十六條 按針手ハ航海長ノ指揮ヲ受ケ舵、羅針、測鉛等

及ヒ其屬具ヲ管理ス可シ

第一百七十七條 按針手ハ後甲板ニ交番當直シテ當直士官ノ指揮

ヲ受ケ其職務ニ從事シ又信號手ヲ置サル艦ニ在テハ兼テ其職

務ヲ奉シ船艙手ヲ置サル艦ニ在テハ水罐ヲ管守ス可シ

第一百七十八條 信號手ハ航海長ノ指揮ヲ受ケ信號旗、信號燈、

諸旗章其他之ニ屬スル器具ヲ管理ス可シ

第一百七十九條 信號手ハ副長若クハ當直士官ノ命ヲ受ケ信號ニ

從事ス可シ

第一百八十條 艦長端舟長ハ掛士官ノ指揮ヲ受ケ艦長端舟及ヒ其

屬具ヲ整頓シ又掌帆長屬或ハ按針手ノ職務ヲ補助シテ其當直

勤務ヲ爲ス可シ

第一百八十一條 前甲板長前甲板次長ハ前橋下部艦首前甲板ニ關

スル事業ヲ掌リ前橋樓長前橋樓次長ハ前橋上部ニ關スル事業

ヲ掌リ大橋樓長大橋樓次長ハ大橋上部ニ關スル事業ヲ掌リ後

甲板長ハ大橋下部後甲板ニ關スル事業ヲ掌リ後橋樓長ハ後橋

ニ關スル事業ヲ掌リ各副長若クハ當直士官ノ命ヲ受ケ可シ

第一百八十二條 甲板長橋樓長甲板次長橋樓次長ハ砲員ノ長トナ

ルトキハ分隊長ノ指揮ヲ受ケ砲具ヲ整頓シ端舟ノ長ト爲ルト

キハ掛士官ノ指揮ヲ受ケ端舟及ヒ其屬具ヲ整頓ス可シ又番兵

長ノ勤務ヲ命セラレタルトキハ番兵司令及ヒ當直士官ノ指揮

ヲ受ケ番兵ノ勤務ヲ監視ス可シ

第一百八十三條 船艙手ハ航海長ノ指揮ヲ受ケ水罐ヲ管理シ又掌

帆長ヲ補助シテ機關士主計掌砲長木工長ノ主管ニ屬セサル艙

内ノ諸庫ヲ整頓ス可シ

第一百八十四條 帆縫手ハ諸帆ヲ裁縫修補シ豫備帆及ヒ帆布具ヲ

主管シ又掌帆長ヲ補助シテ帆庫ヲ整頓ス可シ

第一百八十五條 木工長屬ハ木工長ヲ補助シ損所ヲ修理シ諸脚筒

ヲ整頓シ又木工長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ之ヲ

置カサル艦ニ在テハ其職務ヲ奉ス可シ

第一百八十六條 桶工長ハ諸桶修理ノ事ヲ掌リ鍛冶長鍛冶長屬ハ

鍛冶ノ事ヲ掌リ塗工長塗工長屬ハ塗具庫ヲ整頓シ塗粧ノ事ヲ

掌リ各木工長ノ指揮ヲ受ク可シ

第八十七條 兵器工長兵器工長屬ハ掌砲長ノ指揮ヲ受ケ兵器ヲ修理シ豫備ノ小銃拳銃等ヲ保護ス可シ

第八十八條 機關工手ハ汽機、汽罐ノ保護修理ヲ掌リ火夫長火夫長屬ハ焚火搬炭及ヒ二重底保護ノ事ヲ掌リ共ニ機關部各部ノ淨拭塗油等ノ事ヲ分擔シ運轉中ハ機關室ニ交番當直シ機關士ノ命ヲ受ク可シ

第八十九條 水雷工手ハ水雷主機ノ指揮ヲ受ケ水雷、發砲電機、電機燈及ヒ其屬具ノ修理ヲ掌リ水雷具庫ヲ整頓ス可シ

第九十條 警吏ハ副長若クハ當直士官ノ指揮ヲ受ケ下士以下ノ非違ヲ制止シ犯則者ヲ搜索シ處刑罰人ヲ取扱ヒ燈火喫烟等ヲ警戒シ出入ノ人員物品ヲ查察シ遺失物ヲ處分スル等總テ艦内警察ノ事ヲ掌ル可シ

第九十一條 警吏補ハ警吏ノ職務ヲ補助シ而シテ舷門ニ交番當直ス可シ又警吏事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス可シ

第九十二條 筆記ハ主計官ノ命ヲ受ケ文書謄寫、記錄等ノ事ニ從フ可シ

第九十三條 厨宰ハ下士以下食料ノ買辦給與品ノ取扱主計ノ主管ニ屬スル需用物品ノ出納ヲ掌リ割烹手ハ下士以下食料ノ炊烹分配及ヒ厨房ノ整頓ヲ掌リ共ニ主計官ノ命ヲ受ク可シ

第九十四條 厨宰割烹手ハ各其主務アリト雖トモ互ニ之ヲ補助シ又准卒ノ身上ニ關スル事件ハ分隊長ノ指揮ヲ受ケ之ヲ取扱フ可シ

第九十五條 看護手ハ軍醫官ノ命ヲ受ケ患者ヲ看護シ病室ヲ整頓ス可シ

第九十六條 此條例ハ在任艦ニ於テハ總テ之ヲ遵守ス可シ而シテ練習艦測量艦ノ如キ特別ノ成規アル者モ其成規ニ牴觸セ

サル限リハ此條例ヲ遵守ス可シ

明治二十二年四月二十九日(達一二一)(抄錄)

明治十七年丙第百四十二號軍艦職員條例第一條中「一警吏」ノ三字及第百九十條全文ヲ削除ス

明治二十二年七月二十四日(達二八二)

明治十七年丙第百四十二號達軍艦職員條例中第一條第二條第三十四條第四十三條第五十二條第五十三條第六十條第六十六條第七十八條第八十三條第九百三十一條第九百三十四條第九百三十七條第九百三十八條第九百三十九條第九百四十一條第九百四十二條第九百四十四條第九百四十六條第九百九十一條第九百九十二條第九百九十四條ヲ廢シ「分隊長當直士官ト爲ルトキ」トアルヲ「當直士官」ト「水雷工手」ヲ「機關手」ト改メ第百二條ヲ少尉候補生ニ第百三十五條ヲ少主計候補生ニ適用シ第百九十三條ヲ左ノ如ク改正ス

明治二十三年三月二十五日(達一二八)

明治十七年丙第百四十二號軍艦職員條例中左ノ通追加ス

第百五十條乙 軍樂師ハ軍樂隊ノ長トナリ奏樂ノ指揮ヲナスヲ任トス

第百五十七條丙 軍樂師ハ軍樂手以下諸員ヲ監督シ且其行狀伎倆ヲ詳知シ樂器ノ取扱ヲ監視シ意見アレハ之ヲ分隊長ニ具申スヘシ

第百八十四條乙 軍樂手ハ軍樂師ヲ補助シ奏樂ニ從事スヘシ又

軍樂師事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲナスヘシ

明治二十六年十月二十五日 (達 一〇六)

軍艦職員條例第十六條左ノ通改正ス

第十六條 艦長ハ就役後可成速ニ其艦ノ經濟速力ヲ試定シ又毎年四回高速力ノ試験ヲ爲シ其成績ヲ所管長官ニ報告ス可シ

明治二十七年六月十日 (達 八七)

軍艦職員條例ニ左ノ一條ヲ追加ス

第二百十條 少機關士候補生ハ機關士ノ勤務ヲ見習フ可シ但特ニ命セラレタル事件ニ於テハ責任ヲ有スルモノトス